

シュロダー グローバル市場見通し

2020年
9月




マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
潤沢な流動性に加え、新型コロナウイルス感染による致死率の低下やワクチン実用化への期待の高まりが支援材料と判断することから、見通しをやや強気に引き上げました。	バリュエーションは引き続き、割高な水準と判断しており、今後の利回り低下余地は限定的と考えます。	スプレッドの縮小は続いているものの、中央銀行による金融政策が、引き続き社債市場を下支えすると判断しています。	経済活動が回復へ向かうに伴い、コモディティ価格の上昇が見込まれることから、やや強気の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 クオリティ/グロースの観点、および高い流動性や新型コロナウイルス感染による致死率の低下が引き続き支援材料となると判断しています。
	欧州	 経済活動の回復に伴い、幅広くシクリカルな回復が見込まれることからやや強気の見通しに引き上げました。
	日本	 経済再開が進むにつれ、日本株式の上昇が見込まれると考えることからやや強気の見通しに引き上げました。
	アジア太平洋（除く日本）	 財政政策および金融政策の実施に加え、新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待の高まりが支援材料と判断することからやや強気の見通しに引き上げました。
	新興国	 中国経済の回復やドル安が支援材料であることに加え、バリュエーションの魅力度が相対的に高いと判断しています。

資産クラス	分類		見通し
国債	米国		米連邦準備制度理事会(FRB)による平均インフレ目標の導入を背景に物価が上振れる可能性もあることから、より短期の国債への選好を維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)		利回りがマイナス圏で推移していることに加え、今後のさらなる利回り低下余地は限定的と考えることから魅力度が低いと判断しています。
	新興国 (米ドル建て)		相対的に魅力的と判断されるバリュエーションや米ドル安が支援材料と判断しています。
	新興国 (現地通貨建て)		中央銀行は、引き続き緩和的な金融政策を維持すると思いますが、国ごとに爬行色が出てくると考えており、ラテンアメリカやアジアはより高い実質利回りが期待されると考えます。
	インフレ連動債		FRBが一時的にインフレ率が2%を上回ることを許容する平均インフレ目標の導入したことから、当面は緩和的な金融政策が維持されると考えます。
投資適格社債	米国		スプレッドは以前に比べ縮小したものの、FRBは今後必要であれば、社債買入れ枠を拡大する可能性があると考えられることが支援材料といえます。
	欧州		企業業績が市場予想を上回ったことによるファンダメンタルズの改善に加え、欧州中央銀行(ECB)による流動性供給が引き続き支援材料と考えます。
ハイイールド社債	米国		財政・金融刺激策の実施は引き続き支援材料ではあるものの、ファンダメンタルズの観点から、欧州ハイイールド債に比べ魅力度は低いと判断しています。
	欧州		欧州で実施されている市場支援策が引き続き支援材料と判断しています。

資産クラス	分類		見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー		当面は、原油価格の一定範囲内での推移が予想されますが、世界経済回復に伴い上昇が期待されると考えます。
	金		実質金利の低下やドル安が支援材料と判断することから、やや強気の見通しを維持しています。
	産業用金属		中国以外の国々による需要が上昇する可能性があるものの、南米では新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きつつあることから、供給水準も高まる可能性があり中立の見通しを維持しています。

資産クラス	分類		見通し
通貨	米ドル		FRBは当面は緩和的な金融政策を維持する方針を表明していることから、引き続きドル安が続くと判断しています。
	ユーロ		相対的に割安水準にあることに加え、世界経済の回復に伴い、上昇が見込まれると考えます。
	日本円		米国での新型コロナウイルスによる致死率の低下など、日本円が買われるリスクシナリオの可能性が低下していると判断することから、見通しを中立に引き下げました。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

日本と英国の架け橋を担い続けるシュローダー

1870年（明治3年）、鉄道敷設のために日本政府が初めて発行した国債の主幹事をシュローダーが担いました。それから150年以上たった現在でも、シュローダーは資産運用業務を通じて日本と英国の架け橋を担い続けています。



日本と英国をつなぐ歴史
日本初の国債発行150周年

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会